

横浜市立図書館 100周年





横浜市立図書館開業100周年を迎えて

横浜市教育長 鯉淵 信也

横浜市は大正8(1919)年に、図書館の建設を決定し、開館に備えて約4,000冊の図書を集めていました。この図書の閲覧を求める市民の皆さまの声を受け、大正10(1921)年6月11日に仮閲覧所が開設されたのが、市立図書館の歴史の始まりです。

そのわずか2年後に起きた関東大震災、その後の太平洋戦争による接収など困難に見舞われながらも、市民の皆様をはじめ多くの方々からの御支援と図書館を待ち望む声に後押しされ、市立図書館は立ち上がることができました。

新型コロナウイルスへの警戒が続く現在も、徹底した感染防止対策の下で、利用者の皆様をはじめ、読み聞かせや図書の修理などに取り組む多くのボランティアの皆様が、市立図書館を支えてくださっています。皆様のお力添えに対し、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

人口減少社会の到来やグローバル化の一層の進展、人工知能の発展などにより、私たちの社会や生活は今後大きく変わることが予想されます。このような時代に、未来を担う子どもたちに、多様な本との出会いや深く学ぶ喜びを届け、すべての市民の皆さまの生涯の学びを支える場として、図書館は大きな役割を担います。今後の図書館の発展に御期待ください。



100年の知識を100年先も

横浜市中央図書館長 下澤 明久

横浜市立図書館は、大正10(1921)年に横浜公園内の仮閲覧所で開業してから100年、皆様と共に歩んでまいりました。市立図書館を利用し、支えてくださった皆様に、厚く御礼申し上げます。

関東大震災や太平洋戦争を経て、戦後の高度経済成長期の人口増加や、生涯学習の広がり、インターネットの普及など、100年の間に社会は大きく変わりました。市立図書館も、野毛坂の1館から18区すべてに整備され、図書館情報システムが稼働するなど、身近で便利なサービスを目指して、時代の大きな変化に対応してきました。100年目の節目となる令和3(2021)年は、電子書籍サービスや、移動図書館の事業拡大、図書取次サービスの拡充などをはじめ、新たな事業・サービスへの取組も始まりました。

このたび、市立図書館の100年を振り返るとともに、今後の事業を紹介するパンフレットを作成いたしました。市立図書館のこれまでの100年の歴史とこれから先の未来に思いを馳せていただき、次の100年も共に歩んでいただけますと幸いです。

横浜市立図書館は、これからも人と本をつなぎ、人と人をつなぎ、地域の情報を集め、地域をつなぐ拠点としての役割を果たしてまいります。

引き続き、横浜市立図書館の御利用・御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

横浜市立図書館開館の歴史

1921年 大正10年	6月11日 仮閲覧所
1927年 昭和2年	7月23日 横浜市図書館竣工
1974年 昭和49年	10月6日 磯子図書館
1977年 昭和52年	4月12日 山内図書館
1978年 昭和53年	11月1日 戸塚図書館
1980年 昭和55年	1月10日 鶴見図書館、5月15日 金沢図書館、8月27日 港北図書館
1982年 昭和57年	5月7日 保土ヶ谷図書館
1985年 昭和60年	1月17日 瀬谷図書館
1986年 昭和61年	5月14日 旭図書館
1987年 昭和62年	1月21日 港南図書館、10月21日 神奈川図書館
1989年 平成元年	2月22日 泉図書館、3月14日 栄図書館、5月21日 中図書館
1992年 平成4年	12月2日 南図書館
1994年 平成6年	2月22日 中央図書館一部開館、4月26日 中央図書館全面開館
1995年 平成7年	4月25日 都筑図書館、5月9日 緑図書館

幻の図書館から、1区1館まで

横浜市立図書館の歴史は、横浜公園内に建設予定だった図書館開設までをつなぐものとして、1921(大正10)年に仮閲覧所を開館したことから始まります。しかし、2年後の関東大震災により、資料と共に図書館の建設計画も灰塵に帰し、幻の図書館計画となってしまいました。

それでも多くの人々の尽力により、震災からわずか3か月後には南区にバラックの「中村町閲覧所」が開かれ、翌年には横浜公園内の「第一仮本館」「第二仮本館」に移りました。

そしてようやく、1927(昭和2)年に旧老松小学校の跡地に「横浜市図書館」いわゆる「野毛の図書館」が開館し、長らく唯一の市立図書館として親しまれました。その後、約50年後の1974年に磯子図書館の開館を皮切りに約20年をかけて、すべての区に図書館が設置されました。



磯子図書館(1974年撮影)



山内図書館(1977年撮影)



戸塚図書館(1978年撮影)



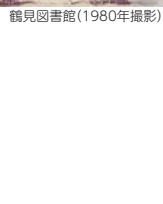
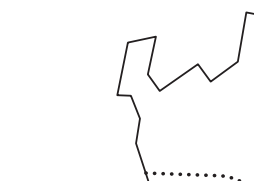
鶴見図書館(1980年撮影)



金沢図書館(1980年撮影)



港北図書館(「横浜市のとよかん'84」)



保土ヶ谷図書館(「横浜市のとよかん'83」)



瀬谷図書館(1985年撮影)



旭図書館(1986年撮影)



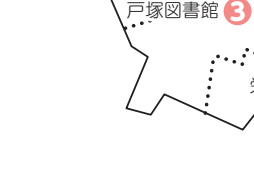
港南図書館(1987年撮影)



神奈川図書館(1987年撮影)



泉図書館(1989年撮影)



栄図書館(1989年撮影)



中図書館(1989年撮影)



南図書館(1992年撮影)



中央図書館(2016年撮影)



都筑図書館(1995年撮影)



緑図書館(「横浜市のとよかん'95」)

1919
(大正8)年

- 12月 開港60周年、自治制施行30周年の記念事業として図書館の建設を計画し寄付金を募る



幻の図書館
(横浜市図書館設計図「横浜市要覧」)
震災前に建設が予定されていた設計図
関東大震災により、計画が実現することはなかった

1921
(大正10)年

- 6月11日 横浜公園内仮閲覧所で図書の閲覧を開始
【横浜市立図書館の開業】



「Java」
(仮閲覧所時代の唯一残った本
製本に出していたため焼失を免れた)

1923
(大正12)年

- 9月1日 関東大震災により仮閲覧所建物および蔵書焼失
- 12月 中村町閲覧所で閲覧開始



中村町閲覧所(「横浜市図書館概要」)

1924
(大正13)年

- 3月 横浜公園内に仮本館竣工



第一仮本館(「横浜市図書館概要」)



第二仮本館(「横浜市図書館概要」)

1927
(昭和2)年

- 7月 野毛坂の旧老松小学校跡(現在の中央図書館の場所)に横浜市図書館竣工



横浜市図書館全景(都市横浜の記憶)

1944
(昭和19)年

- 10月 空襲を避けるため市役所が老松中学校に疎開。図書館の3階を市会事務局、閲覧室を市会議場として使用

1945
(昭和20)年

- 3月 横浜連隊区司令部が図書館へ移転、図書館は戸部小学校へ移転
- 9月 疎開児童帰校のため戸部小より教育会館(紅葉ヶ丘)へ移転。図書館の建物は連隊区司令部立ち退き後、米軍、市復興局が使用

1994
(平成6)年

- 4月 中央図書館全面開館。市立図書館をネットワーク化した図書館情報システム全面稼働



目録カードから検索機へ(「横浜の本と文化」)

1990
(平成2)年

- 1月 中央図書館建設のため横浜市図書館休館

1974
(昭和49)年

- 10月 市立図書館2館目となる、磯子図書館開館

- 1980年代 各区の図書館が開館
2館目の磯子図書館に続く図書館建設を推進するため、「図書館開設準備室」が次々設置され、各区の図書館建設が進められた

1970
(昭和45)年

- 8月 移動図書館「はまかぜ」1号・2号巡回開始



はまかぜ号(1970年代撮影)

1954
(昭和29)年

- 10月 団体貸出事業開始



団体貸出室(「図書館報よこはま」第25号)

1950
(昭和25)年

- 4月 館外個人貸出開始(図書館法公布で閲覧無料となる)
昔の図書館は有料で、1927年当時、1ヵ月の館外貸出し料金は50銭。山手線の運賃が5銭の時代

1947
(昭和22)年

- 8月 移転先から野毛坂の横浜市図書館に復帰



小中学生室(「図書館報よこはま」第10号)

1995
(平成7)年

- 5月 18館目の緑図書館開館。1区1館となる

1998
(平成10)年

- 3月 インターネットによる蔵書検索サービス開始

2005
(平成17)年

- 10月 インターネットによる予約・貸出延長サービス開始

2013
(平成25)年

- 6月 「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」公布

2014
(平成26)年

- 3月 「横浜市民読書活動推進計画」策定

2017
(平成29)年

- 3月 近隣市との相互利用サービス開始

2021
(令和3)年

- 6月 横浜市立図書館100周年



100 1921-2021
YOKOHAMA CITY LIBRARY
横浜市立図書館

- 100年の知識を100年先も -

新たに取り組んでいる図書館事業・サービス

図書館は、読書により生活を豊かにするだけでなく、市民の生活・社会の基盤である福祉・経済・医療・学び等を支えるインフラでもあります。

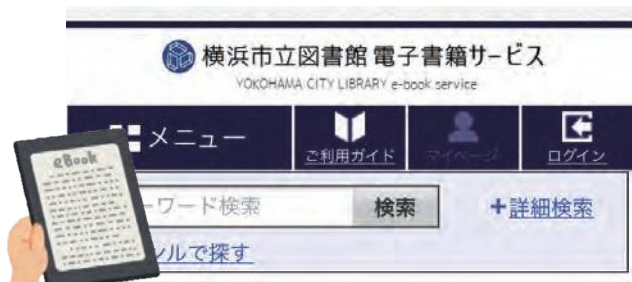
100周年を契機として、年齢・国籍の違い、障害の有無に関わらず、これまでに利用の機会がなかった多くの市民の方にも身近で頼れる図書館として、親しみを持って利用していただくことを目的に、「身近で便利な図書館サービスの充実」に取り組みます。

電子書籍サービス開始

インターネットにつないだパソコンやスマートフォン、タブレットで、24時間、いつでもどこでも読書が楽しめる電子書籍サービスを、令和3年3月から開始しました。

小説やレシピブックなどの実用書はもちろん、絵が動く絵本や図鑑、音声付きの語学書、外国語の本等、いろいろなジャンルの本をご用意しています。

文字の拡大や、文字色の反転、音声読み上げ等、電子書籍ならではの機能もあり、高齢の方や障害のある方も使いやすいように工夫されています。



移動図書館事業の拡大

移動図書館「はまかせ号」は本棚を取り付けた特別仕様の車です。約3,000冊の図書を載せて、図書館から遠い地域を中心に、市内21か所を定期的に巡回しています。

現在1台で巡回していますが、令和3年度に車両をもう1台製作します。令和4年度以降の事業展開にご期待ください。

図書取次サービスの拡充

図書取次サービスは、図書館以外の場所で予約した図書館の本の受取や返却ができるサービスです。

現在、二俣川駅や東戸塚駅の行政サービスコーナー等市内10か所で実施しています。

新たに令和3年度に港北区北部での開始を予定しています。

オンライン対面朗読開始

対面朗読は、音訳者(対面朗読ボランティア)が視覚障害者に直接朗読するサービスです。感染防止対策や、読書機会のより一層の充実を図るため、遠隔コミュニケーションアプリを使用したオンラインによる対面朗読サービスを令和3年3月から開始しました。

外国につながる児童・生徒の読書支援

外国につながる児童・生徒のため、各国で人気の児童書、母語に翻訳された日本の教科書掲載作品や児童書、ひらがなを多用した日本語学習用図書などを揃えました。図書館から各学校に貸出を行い、子どもたちの読書活動を支援します。

100周年を記念した取組

※詳しくは図書館ホームページ
(100周年記念サイト)をご覧ください。



市立図書館100周年記念パネル展示

開業100周年を迎えた図書館のあゆみを紹介したパネル展示を各図書館に巡回して開催しています。



中央図書館展示風景(3~5月)



栄図書館展示風景(5月)

はじめてであうものがたり

絵本を読んでもらっていた子どもたちが、はじめて物語の本を読むとする時におすすめのブックリストを作成しました。ホームページで一覧をご覧ください。

期間限定ツイート100ページ目のことばたち

本の「100ページ目」に掲載されている心に響く「ことば」を本の写真とともにツイートし、本や図書館の魅力を発信しています。
アカウント:@yokohamalib100p



横浜市立図書館ロゴマーク

横浜市立図書館開業100周年を記念して、電子申請や各図書館で、利用者の皆さまにご投票いただき、最も得票数が多かったロゴマークを、横浜市立図書館のロゴマークに決定しました。
これから先、横浜市立図書館を象徴するマークとして活用していきます。

横浜市立図書館ロゴマークに込める思い

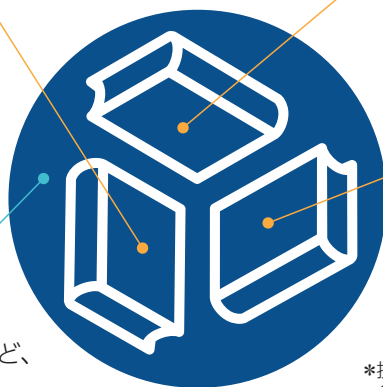
3つの本は、図書館の構成要素である、「人」「本」「機会」。
3つの本で、中心に形作られた「Y」は「横浜」を、
土台となる円の部分は、図書館の存在の基盤となる「まち」と「つながり」を表します。
ロゴマーク全体で、「人」「本」「機会」「まち」をつなぐ、横浜市立図書館を象徴しています。

「機会」

読書や、地域の情報拠点としての場
新しい発見や見識に遭遇する
機会(チャンス)

「まち」と「つながり」

「まち」…
地域(暮らし、学び、働く場所)など、
図書館の存在理由となる基盤
「つながり」…
「人」「本」「機会」「まち」などのつながり



「人」

利用する人・
利用を支える人(図書館職員・
ボランティア・民間企業等)

「本」

本を代表とした、
収集・整理された、
様々な形態の知識・
情報のすべて

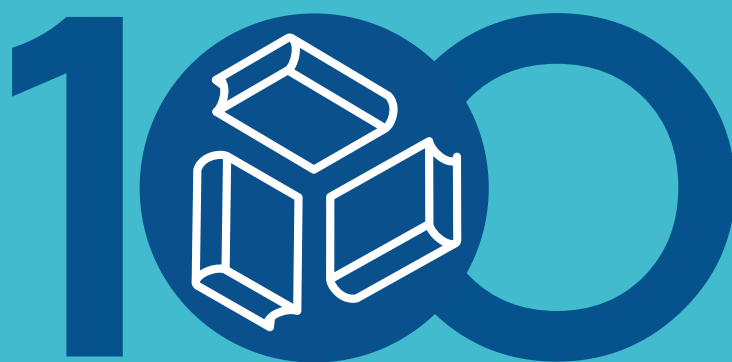
*投票期間
令和2年12月22日~令和3年1月11日
*投票結果(総数6,892票)
1位/B案 3,425票
(2位/A案 2,240票 3位/C案 1,227票)

令和3年6月発行 横浜市中央図書館企画運営課
〒220-0032 横浜市西区老松町1
電話(045)262-7334 FAX(045)262-0052



裏表紙:横浜市立図書館開業100周年記念ポスター

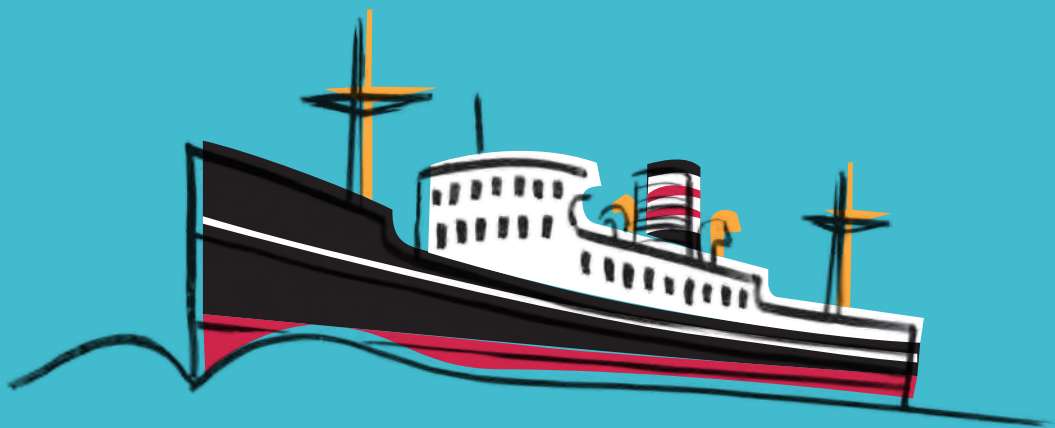
過
去
と
未
来
を
つ
な
ぐ
場
所



1921-2021

横浜市立図書館

- 100年の知識を100年先も -



横浜市立図書館は大正10年(1921年)6月11日に開業し、今年で100周年を迎えました。